

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2014年6月号 通巻66号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2014

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

タヌキは飼えるか？

法律的にも性格的にも勧められません



(左)またいつもの「お母さん」の登場(夏毛)。これは「メシくれ」と要求している顔。普段もこういう顔なので、すぐには気付かなかった。
(右)エサを手渡ししようとする、このように手にかみつかれてしまう(この個体はお母さんではない)。イヌやネコのようにはいかない。危ないのでマネをしてはいけません！
(いずれも文京区で撮影。2010年)

世の中にはいろいろなペット動物がいます。トカゲとかヘビとか、びっくりするような動物を飼っている人もいます。そうすると、タヌキは飼えるのだろうか？と疑問を持つ人もいることでしょう。

法律的には捕獲が難しい

動物の中でも特に危険度の高い動物は「特定動物」と呼ばれ、「動物の愛護及び管理に関する法律施行令」で指定されています。大型動物や毒のある動物が該当します(詳しくはネット検索してみてください)。タヌキは特定動物ではありませんので飼育には問題はありません。

ですが入手は簡単にはいきません。野生の哺乳類・鳥類は「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律」で原則捕獲が禁じられています。捕獲が可能なのは「狩猟」「有害駆除」「学術目的」に限られています。有害駆除の場合は殺処分されますし、狩猟では銃で射殺されることが前提で、免許が必要、そしてい

つでもどこでも狩猟できるわけではありません。そうするとタヌキを捕獲する機会は現実にはほとんどないこととなります。タヌキなどの野生動物がペット店にほとんど流通しないのはこのような理由があるからなのです。

タヌキはなつかない

イヌやネコは人間の言葉を理解しているのではと思わせられることがあります。飼った経験がある人ならばよくご存知でしょう。これはすばらしい能力ですが、数千年に渡る人間とのつきあいの中で獲得した特殊な能力であり、他の動物に同じ能力を期待することはできません。

実際、野生のタヌキと長時間向き合ってきた私の経験からでも、彼らが何を考えているかはほとんどわかりません。「警戒/注目」ぐらいはわかりますが…。何しろ吠えたり鳴いたり尾を振ったりなどほとんどしない動物ですから、外見からは何を考えているのかはわからないので

す。当然、人間の言うことを聞くはずもありません。

また、実際に飼育した例によると、人でもモノでも何でもかみつきますし、あちこちでおしっこをするので室内飼いは勧められるものではありません。しかも夜行性ですので夜の方が活発です(つまり人間が眠れなくなります)。ですので専用の飼育小屋を作って飼うのが無難です。イヌやネコのようにいっしょに遊んだりたわむれたり、ということは無理な相手です。タヌキが特別なのではなく、イヌ、ネコの方が特別な動物なのです。

やはり野生動物は自然環境の中にいてこそです。人間が支配してはいけません。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>